一般演題(ポスター)

2026年11月20日(金) 14:00 ~ 15:00 | ポスター2

一般演題（ポスター）4　大腸癌の転移・再発治療

座長：須並 英二（杏林大学医学部消化器・一般外科）

[P4-4] 大腸癌肝転移切除後に対する残肝再発切除の意義の検討

*長谷川 昂[1]、三吉 範克[1]、竹田 充伸[1]、関戸 悠紀[1]、三代 雅明[1]、浜部 敦史[1]、荻野 崇之[1]、植村 守[1]、江口 英利[1] (1. 大阪大学医学部附属病院消化器外科)

【目的】大腸癌肝転移に対する肝切除は他の遠隔転移と比較し長期生存が期待されるため、根治切除可能な肝転移は切除が推奨されるが残肝再発も多く見られる。その際の再肝切除に関しては一定の見解は得られていないが他に遠隔転移がない肝転移であれば再肝切除が検討される。今回我々は、当院において大腸癌初回肝転移に対して肝切除施行後の残肝再発に対して再肝切除を施行した症例について治療成績を検討し、その意義を明らかにすることを目的とした。
【方法】2012年から2020年に当院で大腸癌初回肝転移に対して肝切除を施行した88例のうち、残肝再発に対して再肝切除を施行した26例を対象とした。患者背景に関しては原発巣手術時の因子と初回肝転移巣手術時の因子を含め、再肝切除時の術後成績を後方視的に検討した。
【結果】再肝切除を施行した症例は男性12例、女性14例、再肝切除施行時の年齢中央値は64.5歳であった。原発巣は結腸癌18例、直腸癌8例であった。肝転移初回手術での切除腫瘍数は1個が13例、2個以上が13例であった。初回肝転移切除から残肝再発までの期間中央値は287日であった。再肝切除時の切除腫瘍数は1個が13例、2個以上が11例で、17例で肝部分切除術が施行された。再肝切除術後30日以内の死亡症例は認めなかった。再肝切除後の生存期間中央値は7.9年であった。
【結論】大腸癌肝転移切除後再発例における再肝切除の治療成績を検討した。予後因子に関してさらなる症例の集積が必要である。

©一般社団法人 日本大腸肛門病学会